



申9号2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ第3回団体交渉③

第3回団体交渉において、 会社回答に対してのJR東労組の考えを述べる

- ・ 定期昇給(昇給係数 4)の実施は確認する。
- ・ 物価上昇・生活向上分を含むベア・基本賃金の一律 10,000 円としての要求内容から大きく乖離し、組合員・社員の本音の声は受け止められていないと言わざるを得ない。世間相場から見ても、職場は率直に「低い」「足りない」と受け止め内容だと認識する。
- ・ ベア実施方法など、会社回答の着目点も分かりづらく、何を持って「最大限の回答」としているのか明確に述べられないことから、納得できる回答ではない。
- ・ 会社はもっと組合員・社員と家族の現実を直視し、生活向上、魅力と期待の持てる JR 東日本グループを実現するため、職場の努力に報い、組合員・社員を第一とした経営姿勢を示すべきだ
- ・ 過去最高の働き度の中、賃金が抑制され続け不平・不満の声が後を絶たないこと、人材流出の危機的状況であると警告してきたが、もはや日常的に転職や退職との言葉が耳入ってくるという、2~3年前では考えられない事態である。
- ・ 職場では「安全・健康・ゆとり」に関する課題が多く発生している。懲罰的な日勤教育やハラスメント行為が行われ、有志のラストランも禁止されようとするなか、国鉄改革を経験した組合員からは「とうとうここまで来たか」「こんな会社にするために奮闘してきたわけではない」「安全第一・現場第一主義、人間尊重はどこへ行ってしまったのか」と怒りや落胆の声。JR 採用の組合員からも「自信を持って子供にこの会社を進められない」との声も複数。現場の現実を経営幹部は直視し、真摯に受け止めるべきである。
- ・ 第 2 回団体交渉では、7,500 件を超える組合員・社員の声为背景に議論をしてきた。しかし、「慎重」姿勢を会社は変えなかった。
- ・ この間、会社からは「コロナ禍前には戻らない」ことを前提とした大変革のもと生産性向上と黒字必達と鼓舞され、黒字転換したら、今度は経営幹部が判断して設定した通期の予想に届いていない、楽観視できない、慎重に判断するのは当たり前と言われ、賃金を抑制されてはたまらない。物価上昇に賃金が追い付いてない。
- ・ 会社は、組合員・社員の労働力なくして成り立たないし、好循環も持続的成長も成しえない。賃金は労働力の再生産費である。従って、組合員・社員の生活を守るのは会社の責務である。
- ・ 会社は業績好調の時も大幅な賃上げをせず、資産を蓄積し、コロナ禍においても一定程度確保してきた。そして、組合員・社員の並々ならぬ努力で会社経営は好転しているが、組合員・社員的生活は厳しさを増していると繰り返し主張し、組合員・社員を第一に考え「慎重」姿勢を変え、経営判断するように求めてきた。この回答は、まだまだ働きが足りないと言われているように思えてならない。
- ・ 回答指定日前でもあることから、改めて再考を求めたが、再考出来ないと言われた。示された回答は大きく乖離し、席上妥結の判断には至らない。

よって、組織内で議論し判断する！

中央本部は、会社回答に対する、
組合員・社員の声を集約しています！